

実践事例—1

まちづくりサポートセンターふじえ

—コロナ禍で疲弊した住民を元気づけ、
まちづくりの拠点としての交流館活動を

広島県福山市^{ふじえ}藤江交流館

所在地：〒720-0543 福山市藤江町2720-1
電話：084-935-7401

はじめに

まず最初に、藤江町と藤江交流館について紹介します。

藤江町は、広島県福山市の西南に位置し、松永湾に面した穏やかな自然に囲まれた町です。2024年3月現在、世帯数1,082世帯、人口2,298人が暮らしています。藤江町でも高齢化率が43%であり、大きな課題になっています。

藤江公民館は、1999年6月、藤江町の中心高台、元藤江小学校跡地に新築移転しました。現在の館は、2023年4月に名称が変更され、新たに「藤江交流館」としてスタートしました。

交流館では、社会教育活動や団体別等学習事業をはじめ、まちづくりの拠点としての交流館活動をめざし、地域住民を元気づけ、心に潤いを与える事業活動を展開しています。そのなかから特徴的な4つの事業活動につい

て紹介します。

1 町民・団体・企業がコラボした参加型事業「イルミネーション in ふじえ」

藤江町では、これまでも地域みんなが参加するイベントを計画していましたが、なかなか参加してもらえず、特に若い世代の参加がむずかしいのが現状でした。それに加え、コロナ禍で何もできない期間が続きました。このままでは、地域住民のつながりや関係性が希薄になり、心まで疲弊してしまうという懸念から、住民を元気づけるために何ができるのかを考え、今までの活動を見直すことから始めました。そんななかで企画したのが「イルミネーションinふじえ」です。

最初に実行委員会を立ち上げ、地元の企業や団体、住民ボランティアの協力のもと取り組んでいきました。このイベントは、若者から高齢者までみんなが楽しんで参加してもら



イルミネーションinふじえ



イルミネーションinふじえ

える事業となりました。製作から展示、当日の運営まですべて手づくりです。みなさんが関心を持ち、充実した活動ができるまでになりました。イベントは参加者みんなで楽しく交流する時間となり、ひと月の開催期間中には、地域内外から多くの方の参加がありました。事業開始から3年、2024年度には3,000人以上の方に来ていただき、優しくあたたかな灯りで、人々の心を癒しの時間へと導いていくことができました。

今後は、地域内だけでなく、福山市内の大学サークルや企業とも連携を図りながら、取り組んでいきたいと思っています。

2 必要とされ、継続している事業 「資源ごみ回収推進事業」

この事業は、地域住民の「もったいない精神」から発し、20年以上継続して活動している事業です。この活動は、藤江学区資源ごみ回収推進委員会が、地域ボランティアのみなさんと協力して実施、活動しています。回収方法も、始まった当初から進化しています。回収方法を紹介します。

①町内にある28か所のごみステーションを活用して、ボランティアにより個別に古紙の回収をする。

②藤江町独自の取組「ふじパス」を活用し、

交流館で個別受入回収する。

「ふじパス」シール方式というポイントシールを使って回収促進をしています。開館時に個人で古紙を持ち込み、1回の持ち込みで1枚のシールがもらえます。シールが3枚集まると、ボックスティッシュと交換できるというものです。

「ふじパス」LINEショップカード方式による新しい方法です。まちづくり公式LINEに友だち登録をし、QRコードを使ってポイントを付与するものです。3ポイントたまると、ボックスティッシュと交換できるというものです。交換したらポイントカードは再発行されます。

③年6回奇数月の第2日曜日、ボランティア全員による回収と、業者への積み込み作業



資源ごみ回収推進事業



ふじパス

をする。

この事業を通じて、若い世代が、保育所や小学校時代から培われた「資源を大切にする精神」を大切に受け継ぎ、藤江町独自の「ふじパス」をうまく活用することにより、子どもたちがおとなと一緒に、楽しみながら資源ごみを回収することが定着してきました。今後は、高齢化しているボランティアスタッフを、若い世代へとどうつないでいくかが大きなキーポイントとなります。

3 高齢者対策としての事業「お出かけ支援事業」

この事業は、国の介護保険制度と福山市の補助金を活用して、藤江学区お出かけ支援推進委員会を中心に、ボランティアにより運営する事業です。藤江町でも、年々高齢者の一人暮らしやご夫婦が増え、自力で買い物や病院へ行くことがむずかしい方が、多くみられるようになりました。地域では、こういった高齢者の方々を少しでもサポートできればという思いで始めました。現在16人のスタッフで活動しています。対象者は、75歳以上の藤江学区在住の、介護を要さず自力で活動できる方です。事前に会員登録と、利用時には予約が必要となります。支援の基本は、中学校区内の病院、郵便局など公共施設への送迎



お出かけ支援事業

や、特定施設やイベント参加への送迎などを行っています。現在、週4回午前中に運行しています。

藤江学区では、年々地域の高齢化が進み、お出かけ支援の要望も高まっていますが、支援ボランティアの高齢化も進み、協力者の減少、個人への負担が大きくなっていく可能性も考えられます。今後事業を継続するためにもボランティアの募集が急務となっています。

4 事業活動を効率化する組織運営「交流館・まちづくり組織のデジタル化」

藤江学区では、福山市の推奨するデジタル化に沿って学区独自のデジタル化に取り組んでいます。近年、事業活動を効率化するための組織運営として、交流館やまちづくり組織のデジタル化が必要となっています。

①ICT機器を使った会議運営を実施しています。まちづくりの中心的組織である推進委員会部会長会のデジタル化としては、PC・タブレットを活用した会議を行っています。クラウド環境を使ってデータを保存し、委員でそれを共有しながら会議を進めます。また、個人のスマートフォンの

交流館・まちづくり組織のデジタル化



PC・タブレットを活用した会議



SNSを活用

LINEを活用して、会議案内やその他の情報提供など、連絡を密にするというものです。事前に会議資料をデータで発信することで、これまでと違い、事前に資料をダウンロードし、当日の会議内容が把握できます。意見を持って会議に参加することで、活発な意見交換ができ充実した会議になりました。後日、必ず議事録を作成し、データを共有することで、活動内容の確認ができ、事業が円滑に実施できるようになりました。

- ②SNSを活用して情報発信を行っています。QRコードやURLを活用して、ホームページからの情報発信や、LINE公式アカウントを活用したタイムリーな情報発信をしています。これらの発信を通じて、幅広い世代に発信できるようになると同時に、地域活動を活性化するための情報を、広く拡散、共有できるようになりました。今後は、情報発信の組織づくりや、ルールづくりが必要であり、何よりも運営にかかわるメンバーを増やすことが急務となっています。

おわりに

藤江町では、これまでの数年間、コロナ禍で何もできないという状況がありました。そ

んななか、まちづくり組織を中心に、みんなで今の環境で何ができるのかを考えることで、活動の方向性において大きく舵を切りました。新しい活動に取り組んでいくことは、大きな不安と懸念がありましたが、多くのボランティアや団体役員、協力者の方々の力により、一步を踏み出すことができました。これらの活動においては、できるだけタイムリーな情報をみんなで共有し、今できる最大限のことをしてきました。そのなかの一番の活動は、地域住民みんなでつくりあげた『イルミネーションinふじえ』の取組です。ふり返ってみると「やってよかった」というのが正直な感想です。

これからは、もっと若い世代の方々を巻き込み、交流館とまちづくり組織が一体となって、地域の人材を育成し、みんなで楽しみながらいろいろな活動をしていきたいと思っています。

すでに、次に向かってさらに進化しながら取組を進めています。「楽しく……元気に……」



(福山市藤江交流館館長 杉原 嗣彦)